



宗教部長

原田 浩司

LIFE LIGHT LOVE

(命 光 愛)

東北学院大学の教育方針は、「福音主義キリスト教に基づく人格形成」です。この方針がスクール・モットー「LIFE LIGHT LOVE」に集約されています。大学礼拝とキリスト教を通して学生の皆さんにこのモットーに込められた貴い意味を学んでもらいます。

この「LIFE LIGHT LOVE」は、アメリカのドイツ改革派教会の人々が心に刻んで世界伝道に向かい、今から百三十六年前に、その内の二人の宣教師が仙台で学校教育を開始し、本学に伝えた言葉です。ウイリアム・ホーイ先生とデイビッド・シユネーダー先生が本学の創設に尽力したアメリカからの宣教師でした。この二人が押川方義先生と共に開設したのが現在の東北学院です。

ドイツ改革派教会の人々が建てたペンシルベニア州にあるランカスター神学校の図書館には、当時の伝道トラクトが所蔵されており、その表紙に「LIFE LIGHT LOVE for the world」と刻まれています。

「知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる」(一コリント八・一)と聖書は語っていますが、専門知識だけを優先し、客観的判断によって物事と取り組めば、当然先端技術や知識を持つ人、すなわち専門家の意見や見解が優先するでしょう。しかしその方向、目的はどこに向かうのか、時として危うい場合もあります。著名なスイスの教育家ペスタロッチは、「信条も宗教もない知識はどんな悪でも生み出す」という主旨のことを語っています。

現代世界は、ウイルスの感染症の拡大、国際間の対立、資源の枯渇や気候変動、貧困や人口増加など幾つもの難題を抱えています。ますます相互交流の促進、多用途の受容、平和な社会形成が求められています。

大学で学ぶ学生一人一人が、「LIFE LIGHT LOVE」を豊かに学び、「地域へ、世界へ(for the world)」積極的に向かう姿勢を身に付け、共生・共存、平和な社会の維持に貢献する人として成長してほしいと願います。

LIFE LIGHT LOVE

学長
大西 晴樹



新入生の皆さん、入学おめでとうござい
ます。第六波が到来し、2年間続いたコロ
ナ禍ですが、出来る限り、キャンパスライ
フを取り戻したいと願っております。

東北学院大学の「建学の精神」は、キリス
ト教に基づく人格教育であり、学則では、こ
の土台の上に、各自の専門を修得すること
を目的としています。たとえ、専門は異なれ、
東北学院大学の学生はキリスト教に基づく
人格教育という共通の教育を受けることにな
ります。

しかし、キリスト教に基づく人格教育と
いっても、キリスト教に馴染みのなかった
多くの皆さんにとって、分かりにくいので
はないでしょうか。東北学院大学は、それ
を分かりやすく伝えるための「スクールモツ
ト」として、LIFE LIGHT LOVE
という言葉掲げています。LIFE (いの
ち) LIGHT (ひかり) LOVE (あい) がそ
れです。

LIFE (いのち) という言葉について、
生命体としての有限な「いのち」という意味
の他に、聖書には、神から授かった「永遠の
いのち」という意味があります。それゆえ、

自分の「いのち」だけではなく、同じように
神から授かった他者の「いのち」も大切にさ
れなければなりません。いわゆる「個人
のいのちの尊厳」です。

LIGHT (ひかり) という言葉について、
聖書には「あなたがたは地の塩、世の光であ
る」という有名な言葉があります。「世の光」
すなわち、この世の闇を照らす知識や行動
の担い手としての「光」となりなさいとい
う教えが示されています。大いに学び、人び
とのために、大学で学んだ知識や技術を役
立ててほしいものです。

LOVE (あい) という言葉について、聖
書には「自分を愛するようになあなたの隣人を
愛しなさい」と述べて、隣人愛の大切さが説
かれていきます。この愛は一方的ではありません。
自分からだけでなく、他者からも
愛される「豊かな人間性」を備えることが求
められています。

皆さんには、大学礼拝に積極的出席し
て聖書の言葉に耳を傾け、生きていくうえ
で大切な「心の基礎力」を身に付けてほしい
と願っています。

CAMPUS MESSAGES

各キャンパス担当の先生たちからのご挨拶



本学に入学して初めて聖書を学ぶ新入生も多いと思います。聖書は人類の知的な遺産であり、若き日に聖書のメッセージを学ぶことは今後の人生の道標となることでしょう。というのも聖書には、人類が経験してきた災害や死や病、貧困をはじめとする様々な苦難を乗り越えるための知恵が数多く収録されているからです。

皆さんのコロナ禍の2年間は、学校での学びや課外活動が制限され、友人や家族との楽しい思い出作りも出来ない忍耐の日々であったかもしれせん。しかし聖書は別の見方があることを私たちに教えてくれます。「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」と。どうぞアフター・コロナの時代の到来を希望しつつ、豊かなキャンパス・ライフをお送りください。



土樋キャンパス

大学宗教主任
出村 みや子



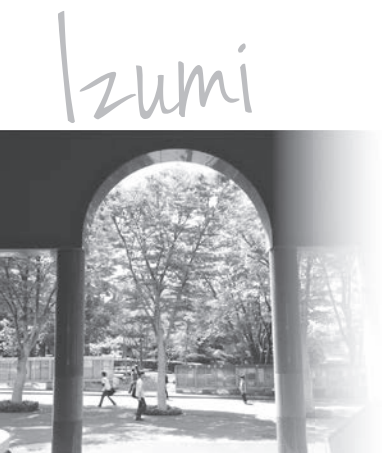
工学部の新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。二〇二三年度には五橋キャンパスに移転になりますので、今年度が多賀城キャンパスの最後の年となり、みなさんが多賀城キャンパスを経験する最後の学年となります。美しい桜を初め、多賀城でのキャンパスライフを楽しんで下さい。特に礼拝堂は二〇一一年の東日本大震災の際、被災者の方々の避難所として活用されました。そうした歴史にも思いを馳せながら、礼拝に通っていただければと思います。

社会に役立つために開発された技術でも、使い次第で大きな被害をもたらすことがあるので、工学技術者にはそれに伴う倫理的な責任が求められます。礼拝やキリスト教の学びを通じて、工学の発展にふさわしい倫理観を身に着けてくれることを期待しています。



多賀城キャンパス

大学宗教主任
木村 純二



新入生の皆様、ご入学、おめでとうございます。皆さんの中には、様々な思いを抱えて入学された方もいるかと思えます。しかし最終的に学院にいられたのは、神様のお導きがあったからでしょう。一人一人が信じている対象が異なっても、大学で求められるているのは社会に出る上での準備、そして何よりも学問を学ぶということです。

日本では、単なる通過点としての大学、解放されて遊ぶ場という認識が広く普及していますが、本来は、自分で探究心を持って関心を深める場であり、同時に、人間として大人になるために切磋琢磨しながら成長する場でもあります。この機会を最大限に活かして、お互いの違いを受け入れ合いながら共に歩んでいきましょう。



泉キャンパス

大学宗教主任
渡辺 有美



一緒に聖歌隊で歌いましょう！
どなたでも参加してください！



※上掲の写真はコロナ禍以前に撮影されたものです。

【コロナ禍での活動】

オンライン配信された
クリスマス礼拝に参加！
(2021年度泉公開クリスマスより抜粋)



【コロナ禍での練習】

楽譜を見ながらリモート
練習！合唱指導者が直接
指導します。



歌声を守るために —— 聖歌隊の挑戦

choirmaster

合唱指導者

中川 郁太郎

宗教部聖歌隊は、建学の精神に基づき、東北学院大学の中心で歌う合唱団として大学礼拝やクリスマスで賛美を捧げてきました。

2020年から世界で流行した新型コロナウイルス感染症は、人類を「歌うこと」から遠ざけてしまいました。しかし、教会の歴史と共に受け継がれてきた賛美の歌声は、東北学院の礼拝から決して失われてはなりません。聖歌隊では2020年度以降も、賛美の歌声を絶やさないために、Zoomを使って自宅から参加できるリモート練習や、クリスマス礼拝動画での合唱(感染対策をおこない、マスクをかけて歌いました)など、さまざまな試みをおこなってきました。昨年度の後半からは、感染対策を十分行ったうえで、定期的に対面練習ができるようになりました。

新しい年度は引き続き感染対策に気をつけながら練習を重ね、次のステップとして、聖歌隊のメンバーが学内外の人の前で歌える機会を何とか作りたいと思います。一人でも多くの皆さんが聖歌隊の活動に参加して下さることを願っています。歌や合唱経験のない人にも丁寧に指導します。4月7日より毎週木曜日、15時から泉キャンパスの礼拝堂または音楽室で練習しています。いつでもいらしてください。東北学院の歌声を守るため、共にチャレンジしていきましょう！

最新情報は次のTwitterに反映させますので、併せてご覧ください。@choir_gakuin





「久しぶりに一緒に集い、学び、語り合ったサマー・カレッジ」

宗教部では日々の大学礼拝を実施し、一年を通して幾つかの行事やキリスト教活動を行なっていますが、夏休みには講義の終了日の翌日からサマー・カレッジを開催しています。通常、秋保や蔵王などの宿泊施設に一時泊して聖書の学びやリクレーションを行い、学びを深め、学生同士や教職員との交流を図ります。現在はコロナ感染症対策のため宿泊を伴う活動は自粛していますので、昨夏は土樋キャンパスのホワイ記念館で一日のプログラムを実施しました。

午前九時に集合し、学生が司会をする開会礼拝の後、野村信宗教部長が「光はカー私たちの内的な力はどこから来るのか」と題して主題講演を行いました。「今年のサマー・カレッジでは、困難や忍耐を伴う生活が続く中で、『持続可能な内的な力』について、新渡戸稲造を通して考えよう」という主旨の内容でした。



新渡戸は岩手県盛岡市の出身で「内なる光」を感じつつ、日本と世界を愛し、教育と平和のために生きた人でした。有名な「われ太平洋の架け橋とならん」という言葉は今も良く知られています。戦争に傾斜していく日本の状況に憂い、各国に日本の立場を説明しつつ平和を維持しようとして願った非戦論者でもありましたが、カナダで七才の生涯を終えました。

『新渡戸稲造全集』第五巻に「日本に関する講義」が掲載されており、それを讀むと、新渡戸の思想が明確になり、「内なる光」が私たちに与えてくれた大切な力であることを語っています。「内なる光」とは、私たちの心を照らすキリストの光であると力説しています。



講演の後、グループ協議を行い、岩手県盛岡の出身ということ、身近な人物として親しみを覚え、活発な話し合いの時間をもちました。黙食の昼食をはさんで、午後からは二人の学生による証の時間を持ち、その後、講演についての質問などの全体協議を行い、開会礼拝をもって終了し、午後三時頃に解散しました。

感染対策を施しつつ、工夫を凝らしたプログラムでしたが、出席した人々は、久しぶりの対面での集いで、楽しく有意義な時を過ごせたという感想を寄せてくれました。さて、今年の夏はどうなるでしょうか。感染が収まっていればより充実したプログラムを立てられるはずです。誰でも参加できますので、6月頃に公開されるお知らせに注目してください。

大学礼拝について

基本的なことを知っておこう

東北学院大学では、講義のある日は大学礼拝を毎日行っています。これは創立した時から現在にいたるまで不変であり、「建学の精神」の具体的な現れです。新入生も在校生も大学礼拝の大切さを知って、午前中にキャンパスにいる時には積極的に出席しましょう。本学での学びに欠かせない「軸」であり、「養い」です。大学礼拝は教会の礼拝よりも短く設定され、学生の皆さんを対象に準備されています。

なお、音楽礼拝や英語礼拝など多少変則的なスタイルの礼拝も行っていますが、大学礼拝の基本的な進行内容をお伝えします。

昨今のコロナ禍で、通常どおりに行えない期間もありますが、礼拝動画が毎週更新されますので公式ホームページからアクセスしてください。

3

【聖書】

Bible

司会者が聖書を開くように指示します。礼拝堂に早く来た人は、あらかじめ開いて読んでおくことをお勧めします。聖書は旧約聖書と新約聖書で構成されています。それぞれに頁数が付されていますのでよく確認してください。聖書には、人が生きていく上で必要なたらべてのことが網羅されていると受け止められてきましたので、一語一句、大切な教えとして聞くように心がけましょう。

2

【讃美歌】

Hymn

司会者が讃美歌の番号を告げます。起立して、心をこめて、声高らかに、一緒に讃美歌を歌いましょう。歌詞を味わうことも大切です。そのうち、自分の好きな讃美歌もできるでしょう。

1

【前奏】

Prelude

第1校時が午前10時20分に終わるとチャイムが鳴り、礼拝堂ではオルガンの前奏が始まります。礼拝堂の最前列から順に着席して下さい。私語は慎み、電子機器はしまって、心を静めて礼拝に備えましょう。

6

【頌栄】

Congregational Response

神の栄光をたたえる短い讃美歌です。頌栄の後、黙祷を捧げます。

5

【祈 祷】

Prayer

司会者は、聖書を説いた後、神の恵みと平安、導きを願う祈りを捧げます。祈りの最後に、司会者と出席者全員で「アーメン」と言います。「そのとおり」の意味です。祈りをみんなで共有する思いで、「アーメン」と唱和しましょう。讃美歌を歌った後の「アーメン」も同じ意味です。

4

【説 教】

Treaching

司会者は、本学の宗教部の先生たちやクリスチャンの先生方であり、教会の牧師の方々が担当される日もあります。どの人も、その日に朗読した聖書に基づいて話されます。一般に「説教」というと、「叱られている」という意味もありますが、「礼拝の説教は、「聖書を説いて教える」とことと理解してください。大切なことは、聖書の「福音」を聴くことであり、人類への「神の真い愛」を知ることです。

7

【後 奏】

Postlude

オルガンの後奏は、「世へ派遣を意味し、皆さんを礼拝堂から新しい一日へ送り出します。」





田島卓先生（大学宗教主任）
 専門は旧約聖書です。
 日々の礼拝で皆さんにお会いできることを楽しみにしています。



椎名雄一郎先生（大学宗教主任）
 キリスト教音楽、バッハのオルガン作品を研究しています。
 礼拝ではみ言葉、そして神様の創造された音楽を共に聴いていきましょう。



木村純二先生（大学宗教主任）
 日本の思想や文学を専門にしています。
 大学礼拝で心を静めて自分と向き合う時間を大切にしてください。



大門耕平先生（大学宗教主任）
 学校教育について研究と実践を行っています。聖書の言葉を知り、考える時間を共有できることを楽しみにしています。



原田浩司先生（宗教部長）
 今年より宗教部長を拝命いたしました。各キャンパスの大学礼拝で皆様に会えることを楽しみにしております。



大西晴樹先生（院長・学長）
 イギリス経済史を専門としています。
 2019年から学長、2020年から院長を兼任しています。

大学礼拝担当者のご紹介

他に、ここに掲載されていないクリスチャンの先生方が数名おられます。皆様、今年度もよろしく願いたします。



今井奈緒子先生（大学オルガニスト）
 教養学部言語文化学部の教員として、キリスト教音楽や音楽史、オルガン演奏を教えています。音楽礼拝では、優れた讃美歌やオルガン曲を紹介します。



川島堅二先生（総合人文学科長）
 専門は近代キリスト教思想の研究。
 カルトなど社会問題化する宗教の研究や調査もしています。



渡辺有美先生（大学宗教主任）
 初期イタリア・ルネサンス美術が専門です。全ての良きものをくださる神様をとみに見上げて行きましょう。



吉田新先生（大学宗教主任）
 専門は新約聖書です。東北学院のキャンパスで多くの思い出を作ってください。
 ※2022年度はドイツへ在外研究中



藤野雄大先生（大学宗教主任）
 専門は、アメリカ教会史。
 東北学院で豊かな学びがなされますよう、お祈りしております。



出村みや子先生（大学宗教主任）
 古代ギリシア教父オリゲネスが専門。
 ギリシア文学にも精通しています。
 『時を見分けよ』との主イエスの言葉を心に留めて過ごしましょう！

第17回

「学生のためのオルガン公開講座」のお知らせ



大学オルガニスト

今井 奈緒子

この講座は、礼拝の楽器として用いられているオルガンに親しみ、演奏することを目的としています。専門家である本学の礼拝オルガニストが、各キャンパス礼拝堂のオルガンをを用いて指導します。単位に関係のない講座ですので、卒業まで継続して受講することも可能です。受講場所も開講時間に合わせて、希望のキャンパスで受講することができます。

◆ 場所

土樋・多賀城・泉、各キャンパス礼拝堂

◆ 受講料

年間一五、〇〇〇円

◆ 期間

五月～十二月(レッスンは月一回ペースで実施。その他自主練習、演奏会準備)

◆ 募集人数

各キャンパスにつき若干名

◆ 講師

小野なおみ(礼拝オルガニスト)
今井奈緒子
(教養学部教授、大学オルガニスト)

◆ ガイダンス開催日

受講希望者は所属キャンパスに拘わらず、五月十二日(木)十六時に、泉キャンパス音楽研究室(礼拝堂一階)の前へ集まってください。ガイダンスの後に受講の意思確認をし、講師との顔合わせ、レッスンの日相談、調整等を行います。出席不可能な場合は事前に宗教音楽研究所までご連絡ください(022-375-1185)。なお、希望者多数の場合は相談、抽選ないし後日オーディションをさせていただきます場合があります。

◆ 対象

本学に在籍する学生
(所属学部、学部生・大学院生を問わず)

◆ 内容

オルガンの奏法と作品を学び、
(個人またはグループレッスン形式)
ガイダンスと修了演奏会を実施します。

礼拝オルガニストのみなさん 2022年度

(上段左から)京極扶美恵先生、今高和枝先生、加藤晶子先生
(下段左から)長谷部真理子先生、今井奈緒子先生、小野なおみ先生、大泉真理先生、阿部和子先生



※この他にも亀井睦子先生、菅原淑子先生、渡辺真理先生の3名がいらっしゃいます。

宗教部

聖歌隊へのお誘い

みなさん、一緒に歌を歌いませんか。中学、高校とみんなで合唱する楽しさを味わった人は大勢いると思います。大学でもぜひ一緒に楽しく歌いましょう。本学の「聖歌隊」は、長く親しまれてきた合唱曲や宗教音楽、また讃美歌を歌い、定期演奏会で発表したり、クリスマスにメサイアを歌ったり、と楽しい企画が幾つもあります。指揮者、ボイストレーナーの先生がしっかり指導してくれます。

歌うことの好きな方は大歓迎です。
今年度の第一回は、四月七日(木)の午後三時より、泉キャンパスの礼拝堂または音楽室にて実施いたします。
是非、参加しましょう。

編集後記

新入生の皆さん、日常生活はコロナ禍にあつて制限されても、気持ちは自由で、未来を志向してください。

幾つかの講義はキャンパスで行われますから、緑の広がるキャンパスで、予防し、工夫しながら良く学び、楽しく活動して大学生活を送ってください。きっとこの経験は皆さんの将来に役立つと思います。

午前中講義がある人は、各キャンパスで行われる大学礼拝へ出席し、心の養いをしてください。貴重な時間になると思います。

大学礼拝は入場数に制限がありますから、礼拝の動画配信を本学のホームページ上で行います。出席できない人は、一週間ごとに更新されますので、それを視聴してください。

この一年、守られて有意義に過ごすことができますように。

二〇二二年四月一日
編集 東北学院大学宗教部
〒九八〇-八五二一
仙台市青葉区土樋二丁目三番一号